**令和６年度第１回岩国市環境審議会の結果について**

**１　会議名**

令和６年度第１回岩国市環境審議会

**２ 開催日時・場所**

　 令和７年２月17日（月）　午後２時から午後４時（岩国市役所・31・32会議室）

**３　出席した者の氏名**

　（委員）

　　藤野完二（会長）、木村圭一（副会長）

　　山口伸弥、石元貞子、宇野勝子、角貞明、福田博一、下松理恵、木村繁

　（事務局）

　　環境政策課　課長：藤井哲夫、環境企画班長：藤本龍吾

　（担当部署等）

　　環境部　部長：穴水辰雄

環境事業課　課長：村重典則、企画室長：青木肇、企画室：廣重範昭、重村紀幸

　（関連部署）

　　環境施設課　課長：栁原正義

下水道課　課長：瀬戸正義、計画班長：白木圭

都市排水施設課　課長：長津信之

**４**　**議題**

岩国市一般廃棄物処理基本計画の取り組み状況について

**５　公開・非公開の別**

公開

**６　傍聴人数**

　　０人

**７　会議概要**

《審議等事項》

岩国市一般廃棄物処理基本計画の取り組み状況について

（会長）

それでは会議をはじめます。

本日は、委員12名のうち９名が出席されていますので、岩国市環境審議会条例第６条第２項の規定であります、過半数の７名以上の出席により、本日の会議が成立していることを報告しておきます。

次に、会議録の署名委員として、木村圭一委員と木村繁委員に署名をお願いしたいと思います。

それでは、本日の議題について、担当課から説明をお願いします。

～　「１　進行管理指標の令和５年度実績と評価」　　担当課（環境事業課）が説明　～

（会長）

ただ今の説明に対して、ご意見ご質問がありましたらお願いします。

（委員）

ＣＯ₂の排出量は、資料のどこに書いてあるのですか。

（担当課）

ＣＯ₂、温室効果ガスの排出量ですね。資料１ページの上の表に、「（オ）廃棄物処理に伴う温室効果ガス排出量」のところに書いてあります。

（委員）

ごみが減量していますけど、人口減になったからなのか、世帯数が減ったからなのか、何か原因はわかりますか。

（担当課）

そうですね。ごみの全体の排出量も人口も減ってきています。「人口１人当たりに換算したごみ排出量」も少しずつ減ってきていますが、何が効いているか、はっきり確定することはできていません。

（委員）

　もう１つ同じような議論になるのかもしれませんが、排水量についてですが、水道局のメーターによる水の使用量から、排水量というのはわかると思いますが、下水道が整備されていない地域は、生活排水を浄化槽で処理して、もしくは未処理のまま、川とかに流していると思いますが、こういった場合に排水量はどうやって把握していますか。

（担当課）

　資料２ページ（２）生活排水のところで示している数字は、下水道とか浄化槽とかを利用している人口になります。排水量につきましては、下水道の場合は、下水処理場に入ってくる水の量を計測しています。

（委員）

岩国市の場合は、下水処理場へ直接流れているのは、全体の割合からみて比較的パーセンテージが少ないでしょう。大半が直接、浄化槽などをとおして川などへ流しているのではないですか。

（担当課）

　かなりの割合が、浄化槽などをとおして川などへ流れています。人口比率で算出された生活排水が処理された割合ですが、資料２ページの（２）生活排水のところで、生活排水処理率は、令和５年度で77.4％となっています。

（委員）

　それだけ生活排水を処理しているのですか。

（環境部長）

生活排水の処理は下水道が一般的ですが、下水道普及率は岩国市全人口の50％にも達していない、他は合併処理浄化槽などで処理されているものも生活排水処理されていることになりますから、それを加えた数字ということになります。人口割合でいくと、都市部のほうは人口が多いので、普及率自体は数字的には上がっているとは思いますけれども、エリアで考えますと面積割合でいうと、委員がイメージされているものとは離れているとは思います。

（委員）

　はい。わかりました。

（会長）

他にございますか。

（委員）

岩国市は市町村合併して今年で20年になりますけれども、全岩国市を合併区分で色分けしたとすれば、生活排水処理率について、例えば、この地区は６割、７割あるよとか、もしくは、この地区は２割ぐらいしかないよ、とかいう数字はある程度、把握していらっしゃいますよね。

（担当課）

（地区それぞれの）生活排水処理人口の数字は把握しております。

（会長）

全体を理解できず質問していることになるかもしれませんが、この資料（参考　ごみ排出量の実績値と将来推計値）の内訳表を見てみると、総体的にごみの排出量が横ばい、どちらかと言えば減っている傾向にあるわけですが、粗大ごみだけ平成30年度を境に増えていますよね。他のごみは大体減ってきているのに、粗大ごみだけは減っていない、逆に増えている、これはどうしてですか。

（環境部長）

　粗大ごみの量が増えている原因は、サンライズクリーンセンターが稼働してそれに関係して、粗大ごみとして、搬入できる大きさが大きくなりまして、それに伴い粗大ごみの扱いが増えている、搬入量が増えているということでございます。今まで１メートルだったものが２メートルまで受入れ可能というルールにその時に変えましたので、それに応じて粗大ごみの量が平成30年度以降増加傾向にあるということでございます。

（会長）

　はい、わかりました。ありがとうございました。

他のご質問はございませんか。なければ次に進みたいと思いますが、よろしいですか。それでは次の説明をお願いします。

～　「２　ごみ処理基本計画の施策の取り組み状況と今後の方針」　ごみ発生・排出削減（施策１から施策５まで）　　担当課（環境事業課）が説明　～

（会長）

　質問を受け付けたいと思います。

（委員）

資料３ページの施策２「ごみ処理体験学習（施設見学等）」について、幼稚園・保育園・小学校・中学校からの施設見学はどのような感じのものですか。施設の中を回るのでしょうか。

（担当課）

　施設の中を説明しながら回って、見学していただけます。

（委員）

ごみ処理の体験というのを小学校とか幼稚園とかどんな感じでやっているのかなと思って。サンライズクリーンセンターなら、施設見学とかずっとできるようになっているので、わかりますが、ここでいう施設はサンライズクリーンセンターではないのでしょう。

（担当課）

施設のほうはですね。今おっしゃられたように老若男女というか子どもさんから高齢者の方まで見学できるようになっています。おっしゃられるように見学ルートがあって回って見ていただく、施設の機械が見える場所で説明があったりしますが、施設のほうで、幼稚園児・保育園児を対象とした体験はやっておりません。

（委員）

　書いてあるので、どのような感じでやっているのかなと思って、ケガしてはいけないなと思って。ちゃんと、施設を回れるのかなと思って。

（環境部長）

　小さい子でしたら、リサイクルプラザの上の２階のほうで、分別して出されたごみを、更に分別しながら、どのように資源化しているかを見ていただくということになります。

（担当課）

　インターンシップとかで来られる方は体験していただくこともありますけれども、高校生や大学生以上になります。

（委員）

　リサイクルプラザの上の２階なら、わかります。

（環境部長）

　小学生、中学生については、「エコフレンズいわくに」に協力してもらって、広報したり体験していただいたりしていますが、個別に施設の処理の方法を体験していただくことはありません。

（会長）

他にございますか。

（委員）

　岩国環境フェスタをのぞいてみると、非常に来場者が多い、いつも盛況で、出展者が10数者いらっしゃいますけれども。高校の文化祭とか、市ではないので行きにくいと思うのですが、親は子どもの言うことを聞くので、ああいうところでごみの分別の講座とかできないものだろうか。基本的に無理ならしょうがないですけれども、ああいった子ども世代から、ごみの分別をどうするべきかとか、将来につながる取組としてやっていかないといけないと思います。

（担当課）

　ありがとうございます。小学校などには、出前講座、ごみの分別を体験してもらって、といったことを、させていただいていますけれども。高校はあまりありません。これからの参考にさせていただいたらと思います。

（会長）

　私もリサイクルプラザをじっくり見学させてもらいましたけれども、２階の分別作業の大変さですね、見ていると、本当にすごいホコリと臭いの中で皆さん黙々とがんばっておられる。あれは見るべきだと思うのですよね。それと、下の１階は、いろんな分別されたごみをトラクターとかで圧縮したりしている。私が行ったときに、作業員が非常にテキパキと気持ちよく動かれていて、あれを見て感動しましたね。やっぱり、これを見てもらうということは、子どもたちの反応も大きいと思いますので、ぜひ進めてもらいたいと思いますね。

それともう１つ、市報にでている「エコラム」、あれいいですね。視点が毎回変わって丁寧に説明してもらっているのですが、非常にいい取り組みだと思います。もう少し画像があるといいのかなと思って見ていますけれども、内容は濃いし、今後も続けてもらいたいと思います。

（会長）

　質問ないようでしたら、次に進みたいと思いますが、よろしいですか。それでは次の説明をお願いします。

～　「２　ごみ処理基本計画の施策の取り組み状況と今後の方針」　ごみ発生・排出削減（施策６から施策13まで）　　担当課（環境事業課）が説明　～

（会長）

　資料９ページの施策９「スーパーマーケット等における減量活動」についてですが、広島のスーパーになりますけど、店内の場内マイクで、盛んにごみの分別の話しを繰り返し放送されていました。以前はマイバッグのことだったのですが、最近では、生ごみの問題とか、使い切りをしていただきたいとか、「てまえどり」してくださいとか、そうゆうことを丁寧に呼びかけていましたよ。それから、その店は入り口のところにペットボトルの回収コーナーがありますが、そこの利用についてのお願いなども呼びかけています。岩国のスーパーでも話をすれば、同じように取り組んでもらえるかなと思います。

また、その店は、買い物している途中にさかんに呼びかけてくるので、例えば、余った野菜なんかを販売されていますよ。それも今までは見栄えが悪いから買わないという人が多かったけど、調理には問題ないということをちゃんと説明されてから、最近はそれ（余った野菜）から売れていますよ。見ていると、最近は（余った野菜が）ほとんど残ってないですよ。そういうことを見てみるとやはり事業者の協力をあおぎながら、そういう会話を途中で話していくことも大事なのではないかと思いますよね。

それからもう１つは、岩国市内のある小さなレストランですが、そこでいらなくなったものを売っていますよ。レストラン横のコーナーで。来られるお客さんが持ってきたものも販売してあげていますよ。そうすると、エコフレンズさんがリサイクルプラザで頑張っておられますが、外に出かけて行って、レストランや喫茶店のコーナーで売るとか、あるいはスーパーの一角で並べて「古いものです」と100円で売っていくとか、いろいろ連携をしてみると、意外といろんな製品の処理がスムーズにいくのではないか。難しいかもしれませんが、検討する余地はあると思いますよね。いかがでしょうね。

（担当課）

　ご意見いただいてありがとうございます。今の、スーパー店内での呼びかけや遊休品の活用みたいなもの、いろいろな可能性がまだあると思いますのでその辺も考えていきたいと思います。

（会長）

　ぜひよろしくお願いします。以前、スーパーを訪問したことがありまして、話してみると意外と聞いてくれましたよ。ぜひ、検討の余地があると思いますのでよろしくお願いします。

（担当課）

　ありがとうございます。

（会長）

　みなさんありませんか。ないようでしたら、次に進みます。それでは、お願いします。

～　「２　ごみ処理基本計画の施策の取り組み状況と今後の方針」　ごみのリサイクル（施策１から施策５まで）　食品ロス削減推進計画（施策１から施策２まで）　　担当課（環境事業課）が説明　～

（会長）

　ここまででご質問ございましたらお聞かせください。

（委員）

　資料11ページの施策３「焼却余熱の利用」についてですけれども、サンライズクリーンセンターの余熱を使っているスパ・サンライズ（温浴施設）ですが、大変好評と聞いています。

（環境部長）

　施設的に過剰気味でして、なかなか水質管理が。もともとの施策が１日50人規模で考えておりましたけども、今は、１日平均すると250人（当初想定より200人オーバー）くらいなので、どういうふうな制限をかけるのがよいか、今の状況には苦労しています。

（会長）

　３キリ運動には水キリも含んでいるわけですけども、岩国環境フェスタとか、ああいうところで３キリについて周知するのも必要なのですが、なぜ、３キリが必要なのか、というところをＳＤＧｓの立場からもう少しわかりやすく説明する必要があるのではないかと。これ完全にＳＤＧｓの一環ですから、だから食品ロスをなくさなければならない。こういうことをはっきり打ち出して画像とか流したほうがいいと思いますね。もっと検討してもらってもよいと思いますけどね。

（担当課）

ご意見ありがとうございます。実は昨年の６月の岩国環境フェスタでもクイズを解きながら、食品ロス、そして世界の食料事情など、についても学べるようなブースを設けさせていただいています。ＰＲが足りない部分もありますけれども、そういったこともまた、来年のイベントなど、いろいろな機会に啓発していきたいと思っております。

（会長）

　ぜひよろしくお願いします。最近の食品の値上がりですね。何を示しているかというと、日本の食料自給率の少なさです。背に腹は代えられない時代が来ると思いますよ。そういうことを理解してもらうためにもＳＤＧｓを表に出したほうがよいと思うので、よろしくお願いします。

（会長）

　他にございませんでしょうか。

（委員）

食品ロスを、岩国市内にも取り扱っている団体が他にもあると思います。そういった団体にも積極的に声をかけて、どういったことに困っているか、どういった支援ができるのか、そういった団体をある程度把握していただいて、ことを進めていただくのも、岩国市さんだけでは無理ですよね、市全体でやっていかないと。やっぱり、そういった団体もいるわけですから、ぜひですね、そういった団体にも声をかけていただいて、進めていただいたらと思います。

（担当課）

　ありがとうございます。昨年度も委員からご意見いただいておりますが、福祉部局や、それからフードバンク岩国などとも、これからも連携をしっかりしていきたいと思います。

（会長）

他にございませんでしょうか。それでは次をお願いします。

～　「２　ごみ処理基本計画の施策の取り組み状況と今後の方針」　ごみの適正処理の啓発と推進（施策１から施策３まで）　環境美化の推進（施策１から施策２まで）　　担当課（環境事業課）が説明　～

（会長）

　ここまでで、ご質問ございますでしょうか。

（委員）

「ごみの適正処理の啓発と推進」の中で紹介されています、コンタクトレンズ空ケースの回収について、すごくよい取り組みだなと私自身思っております。今、回収ボックスの設置場所が市役所と総合支所等と紹介ありましたが、その「等」のあたりに、もしかしたら入っているのかも知れませんけれども、コンタクトレンズを使う年代というのが若い子たちが多いと思います。一番使用率の高い高校にボックスをおくと、回収率がもっと増えるのではないかなと、それと、各高校のボランティア部などがあると思いますので、この取り組みの収益が、角膜の病気に役立つということを広く知ってもらえるとすごく回収率が上がるなと思いましたので、ちょっとご意見させてもらいました。

（担当課）

　ありがとうございます。

（会長）

　不法投棄の件ですが、粗大ごみにつながってきますけども、つい１週間ほど前に、道路際にかなりの不法投棄ごみが出ていました。使えなくなった家具をそのまま道路際に放り投げているわけですよ。捨てる人の気持ちというのを考えていくと、この問題は何とかしたいなと痛切に思いましたね。すさまじい量です。

ペットボトルのごみなんかもすごいですよね。ぱっと表面上は見えないですけども、側溝を見るとよくわかります。側溝に転がっていてたくさんたまっていましたね。なんとか啓発できないかなと思いますけども、それでふと思ったのが、大竹市さんの取り組みになると思うのですが、道路際に設置した看板で、子どもの言葉で書いてあるのがあります。「お父さん、ごみ捨てしないでね。僕のためにポイ捨てをしないでね。」と書いてあります。あれは有効だなと思いますが、ぜひ検討をよろしくお願いしたいと思いますけども。

（担当課）

　不法投棄の看板についても、看板の配布とかごみステーションのごみの分別の看板で啓発させていただいています。会長がおっしゃられたような心情に訴えるような看板もいくつかありますけれども、そういった部分についてもできるところを検討していきたいと思います。

（会長）

　よろしくお願いします。皆さんご意見ございませんでしょうか。

（委員）

　前に戻って申し訳ないのですが、ここの中にある資源ごみの収集が何項目かありますけども、新聞紙とか雑誌だとか。この中に週に一回プラスチックを回収しているのではないですか。この中にプラスチックがないようですが、これはどういうことですか。回収したトレーのリサイクルメーカーを見学したことがありますが、スーパーなどで回収したトレーは非常にきれいなので回収率もよいようなことを聞きました。ところが、家庭用のプラスチックにはいろいろなごみが入っていると思うのですよ、回収できないようなものが。その中でどれくらい回収してどれくらい焼却処分されているのかわかったら教えてください。

（担当課）

　こちらのＡ３資料（参考　ごみ排出量の実績値と将来推計値）の内訳表になりますけれども、収集ごみの容器包装プラスチック類で言いますと、令和５年度の実績は約2,000トンでして、一般家庭の収集ごみ全体で約25,000トンありますので、およそ10％弱が、容器包装プラスチック類の割合と考えていただいたらと思います。そちらのプラスチックは、リサイクルプラザのほうへ搬入しまして、分別して梱包したのち、容器包装リサイクル協会を経由して、最終的にリサイクル業者さんに出荷しています。資源として、プラスチック類として回収したものは、ほぼほぼすべてを出荷できます。岩国市は非常にリサイクルに対しての意識が高い方が多くいらっしゃって、今、具体的な詳細な数字は持ち合わせてはいませんけども、ほとんどのものが出荷できています。

（委員）

この間見学したところはかなり回収再生できるようなものがあった。できないというものもかなりの量あったと思いますよ。

（担当課）

　全般に集める量がかなり多いので見た目にたくさんあるようでも全体量に比較するとそこまで多くないということです。

（環境部長）

簡単にいうと、プラスチックに限らず年間でリサイクルプラザに入ってくるのが令和５年度実績で、だいたい6,454トン、全部含めてですけど入ってきてそのうち資源化できるのは2,923トン、約半分弱くらいですね、資源化できない残渣は、サンライズクリーンセンターのほうで焼却処分しており、2,463トンくらい。だいたい半分は資源化しているということです。なお、サンライズクリーンセンターの焼却処分は発電ということで再資源化の一翼を担っています。

（委員）

　はい、ありがとうございました。

（会長）

　他になければ、次に移りたいと思います。よろしくお願いします。

～　「３　生活排水処理基本計画の施策の取り組み状況と今後の方針」　　担当課（下水道課及び環境事業課）が説明　～

（会長）

　何か質問がございましたらお願いします。

（委員）

　単純な疑問なのですけども、下水処理場の見学者が非常に少ないようですが、見学者２人とか、何でなんでしょうか。

（担当課）

　年に１回、下水道の日（９月10日）ということで広報していますが、以前は学校からの見学を受け入れたこともありますけれども、コロナの関係で一時見学の受け入れを中止したこともありまして、コロナが明けてからも学校からの見学の申し込みがない、という状況です。

（委員）

　サンライズクリーンセンターの見学者は多いですよね。

（環境部長）

なかなか身近でないということもあると思います。流れていくと目に見えないという、やっぱり、目に見えるところとの差、リサイクルプラザやサンライズクリーンセンターは、手にとって目に見えるので、見学としてはそちらのほうを優先されているのかなと思いますが、こちらのほうも大事なことなので、できれば環境施設一式を見ていただければいいのかなと思います。

（委員）

　こういうことを言っていいのかわかりませんが、全国放送のテレビで、広島のごみ処理施設が紹介されていたのですが、私も行きましたけども、ものすごくきれいで観光施設みたいになっています。

（環境部長）

新しい施設は関心が高くなると思います。サンライズクリーンセンターも稼働してから数年しかたっていないので、ぜひ、多くの人に見学に来ていただけたらと思います。

（会長）

　今、部長から発言のありました下水処理場の見学と子どもの実体験となかなかつながりにくいというのは確かだと思いますね。それで、前に私がやっていたことですが、このくらいの水槽にきれいな水を入れておいて、子どもたちにフィルムケースぐらいのところに、子どもたちが１日に出す汚水として、牛乳を飲んだらでますね、味噌汁飲んだらでますね、ジュースを飲んだらでますね、といったものを10種類くらい集めといて、子どもたち１人１人に渡して、ジュースを飲んだら捨てるよね、捨てた水はこの中に入ります、と水槽の中に入れていくと、そしたらどんどん汚れますよね、こんなに汚れたのを飲めるかと、子どもたちは大抵飲めないと言います。この汚れた水をきれいにしてくれるのは誰でしょうか、下水処理場のおかげですよ、と。子どもたちはすごくわかってくれますよね。部長もおっしゃたように、施設見学に来ることは、自然との生活をつなげてあげるということで大事なことだと思いますね。ぜひ工夫してみていただいたらと思います。

（会長）

何かございますでしょうか。全体を通して何かございましたら。ないようでしたら、これで終わりたいと思います。